

みんなで考えよう！！ 景観まちづくりワークショップ

日時：平成25年11月16日（土）14時00分～16時00分
場所：行田市産業文化会館 2階2A 会議室

【本日の内容】

- 1 あいさつ
- 2 ワークショップの趣旨説明
- 3 先進事例紹介
- 4 グループワーク①【プロジェクトの提案】
- 5 グループワーク②【アクションプランの作成】
- 6 グループ別の発表
- 7 やってみたいと思うプロジェクトへのシール貼り
- 8 まとめ

ワークショップの趣旨説明

【まちづくりに関する計画】

行田市都市計画マスタープラン（平成25年3月策定）
計画期間：平成25年度～平成44年度

【将来像】

水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ



中心部地域の将来像と基本方針

【将来像】

水と緑を身近に感じ、歴史の風格が漂う 歩いて暮らせる便利なまち

【基本方針】

- 1) 水と緑と歴史を活かしたまちづくり
- 2) 安心して住み続けられる質が高く利便性の高いまちづくり
- 3) 人が集まり、活気とにぎわいのあるまちづくり

ワークショップの趣旨説明



【ワークショップの目的】

- ・ 計画を実現するモデルとして、行田市駅周辺のまちづくりを考えます。
- ・ そのために、地域の皆様やまちづくり取り組んでいる団体の皆様と一緒にまちづくりを進めます。

例えば、こんなこと!!

- 歴史・文化資源を活用した界わいの整備
- 駅周辺における駐車場・駐輪場の整備促進
- 空き店舗活用の促進
- オープンスペース等の整備
- 歴史資源の保全・活用
- 歴史資源をめぐるルートの充実 など

ワークショップの趣旨説明

【ワークショップの内容】

○2つのテーマに分かれて考えます。

行田らしい
まち並み
づくり

行田らしい
にぎわい
づくり

行田らしい景観まちづくりを目指して

ワークショップの趣旨説明

【今年度の取組み】

- 4回のワークショップを通じて、行田らしいまち並みづくりとにぎわいづくりに何が必要かを、みんなで考えます。



【今後の取組み】

- 活動や取組みの実現に向けて、継続的に皆様とのつながりと検討機会を設けます。

ワークショップの趣旨説明

【全体の流れ】

【第1回】

- まちあるきの実施
- エリアの魅力と問題点のマップづくり



まち並みづくり

【第2～3回】

- 行田らしいまち並みづくりに向けた取組みの提案
- 保全すべき建築物の活用方法の提案

にぎわいづくり

【第2～3回】

- 商業や観光のにぎわいづくりに向けた取組みの提案
- 回遊ルートづくりの提案

【第4回】

- まち並み形成・にぎわいづくりの実現に向けた役割分担
- 取組みの優先度の提案

前回（第2回）のまとめ

【第2回の内容】

14時～ ワークショップの趣旨説明

14時20分～ グループワーク

【まち並みづくりのテーマ】

○建築物や空き地を活用、改善する取組みの提案

【にぎわいづくりのテーマ】

○資源とつなぎ、観光客が回遊するための取組みの提案

15時20分～ グループ別発表

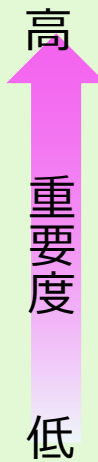
15時35分～ シール貼り及びまとめ

16時 終了

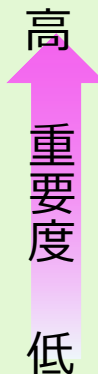
前回（第2回）のまとめ

◆まち並みづくり

【ソフト的な取組み】

- 
- 高
重要度
低
- 空き地を仮設のカフェ等で一時的に利用する。
 - 住民のまち並みに対する意識や関心を高める方法を考える。
 - 具体的な方針や目標をつくる。
 - 多くある寺社仏閣を観光化する。
 - 小さな路地や旧北谷横丁を活かせるように、情報発信を行う。
 - 空き店舗の活用を促すために、税金の軽減等の措置を行う。
 - 足袋蔵をイベントで活用する。 など

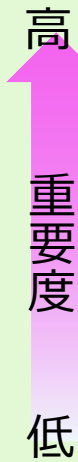
【ハード的な取組み】

- 
- 高
重要度
低
- 空き店舗、空き家を活用する。
 - 新町商店街のアーケードの撤去による商店街のまち並みづくりを行う。
 - まち並みに溶け込むような案内板や商店の看板を設置する。
 - 空き地に植物を植える。
 - 足袋蔵や小さな路地等の整備を行う。 など


前回（第2回）のまとめ

◆にぎわいづくり

【ソフト的な取組み】

- 
- 回遊ルートの整備やテーマ別のルートをつくる。
 - まちなかのにぎわいづくりに向けたコンセプトをつくる。
 - 住民による仕組みづくりや住民意識の醸成を行う。
 - わかり易く、活用し易いマップの整備を行う。
 - 空き地、空き家、空き店舗を活用し易い様に、出店希望者、利用希望者への支援を行う。
 - 観光資源やイベント、まち並みについての情報発信を行う。 など

【ハード的な取組み】

- 
- 空き店舗、空き家を飲食店、休憩所、観光案内所等として活用する。
 - 歩きやすく、移動しやすい環境の整備を行う。
 - 空き地をイベント時に利用できる場所や駐車場として活用し、レンタサイクルの設置を行う。
 - 名所旧跡や資源の歴史がわかる案内板を設置する。
 - 宿泊施設、飲食店、トイレ等といった滞在できる場所の整備を行う。
 - 商店街や街なか等でイルミネーションを実施する。 など

本日の予定

- 14時～ ワークショップの趣旨説明
- 14時20分～ 先進事例紹介
- 14時30分～ グループワーク①【プロジェクトの提案】
- 14時40分～ グループワーク②【アクションプランの作成】
- 15時30分～ グループ別発表
- 15時45分～ シール貼り及びまとめ
- 16時 終了

グループワーク①

第2回の意見を踏まえて、プロジェクトを選定します。

【まち並みづくりのプロジェクト(例)】

- 行田市駅から新町通り・新店通りのまち並みづくり
- 本町通り周辺のまち並みづくり
- 蓮華寺通り・旧北谷横丁周辺のまち並みづくり など

【にぎわいづくりのプロジェクト(例)】

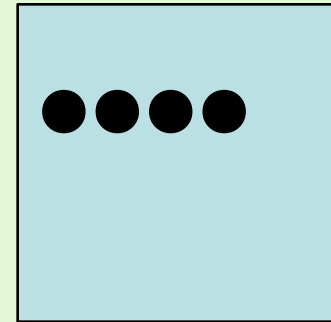
- にぎわい創出に向けたストーリーづくり
- 周辺資源と連携した回遊ルートづくり
- 行田市の魅力のPR戦略づくり
- 空き店舗の活用によるにぎわいづくり など

※住民による仕組みづくりや住民意識の醸成については、第4回のテーマとします。

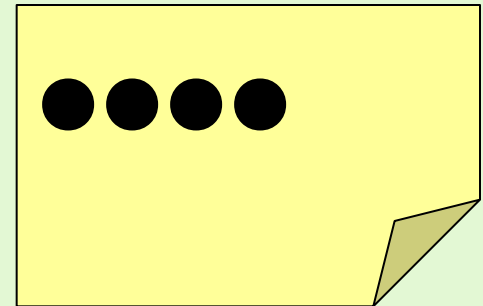
グループワーク②

①プロジェクトごとにアクションプラン(誰が、どこで、何を、いつやるのか)を作成します。

②プロジェクトにそった具体的な取組みのカード(前回出た意見)を選びます。



③取組みのカード以外で思いついた取組みについては、ポストイット1枚に1つの意見を書いてください。

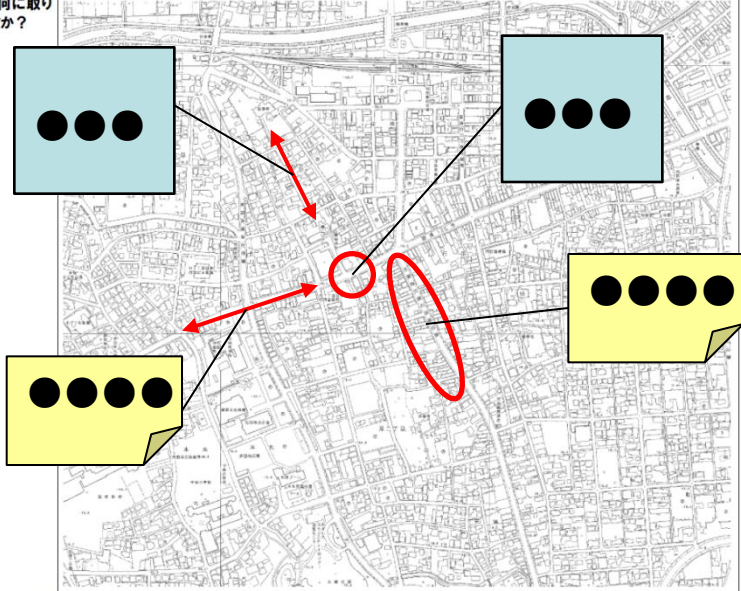
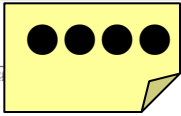
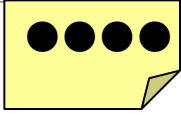
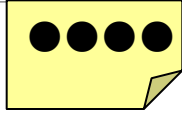
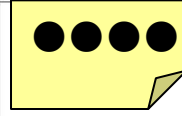


グループワーク②

【アクションプランの作成方法】

- ①プロジェクト名を記入します。
- ②プロジェクトにそって、どこで何をすればよいか提案します。
- ③誰が主体で取り組むか話し合います。
- ④それぞれの取組みのスケジュールを話し合います。

50分で意見出し

検討項目	意見		
①プロジェクト名	●●●●●●●●プロジェクト		
②どこで、何に取り組みますか？			
③誰が(主体で)取り組みますか？			
④いつ取り組みますか？(前・中・後期スケジュール)			
⑤いつ取り組みますか？(年間スケジュール)			

グループワーク

【ワークショップのルール】

- 自分の主張ばかりせず、相手の話を聞きましょう
- 人の意見を否定しないようにしましょう
- 相手の意見のいいところを見つけましょう
- 進行役の言うことをしっかりと聞きましょう
- テーマにそった話をしましょう
- 楽しく、積極的に参加しましょう。

グループ別の発表

- ◆話し合った内容を発表します。
- ◆発表する人を決めてください。

やりたいプロジェクトへのシール貼り

- ◆やりたいと思う具体的な取組みにシールを貼ってください。（1人4つまで）
- ◆1つのプロジェクト1人1つずつ、やりたいと思うプロジェクトを選んでください。

先進事例紹介

■ 福島県白河市

白河市では、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」(通称:歴史まちづくり法)に基づき、「白河市歴史的風致維持向上計画」(白河市歴史まちづくり計画)を策定し、地域に残る歴史的・文化的資源を見つめ直し、それらを活用した白河らしいまちづくりを推進している。

【特徴・具体施策】

- 旧奥州街道や歴史的街路沿道の良好なまちなみ景観形成のため、修景に対する支援を実施。
- 歴史的空間を体感できる白河のまちなか回遊性を向上させるため、歩行者向けの案内板や説明板等を設置。
- 歴史的な蔵の修景保存に対する支援を行い、景観形成や蔵の保存・活用を図る。

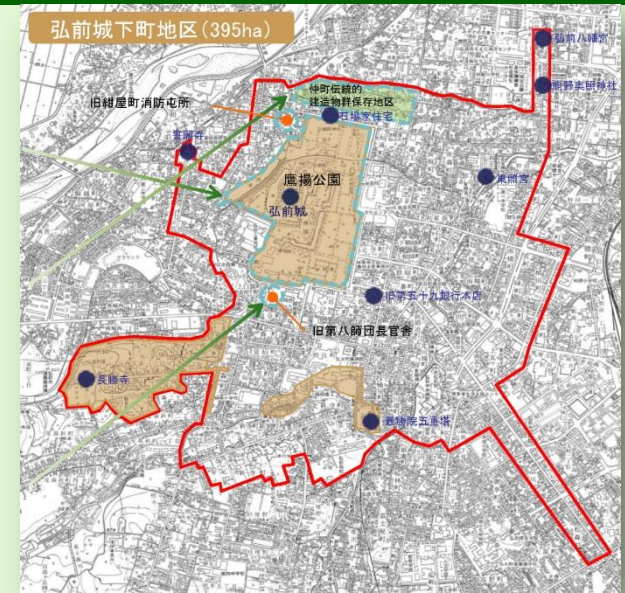


先進事例紹介

■青森県弘前市

弘前市でも、歴史まちづくり法に基づき、歴史的風致維持向上計画を策定。

先人から受け継いだ歴史的・文化的資産の維持・向上に努めるとともに積極的な活用を図り、市民が誇りに思えるまち、また、来街者にとっても魅力あふれるまちにするため、弘前の歴史的風致を活かしたまちづくりに取り組んでいる。



【特徴・具体施策】

- 仲町伝統的建造物群保存地区内の無電柱化及び消流雪溝を整備することにより、鷹揚公園と一体となった良好な景観形成及び回遊性の向上を図る。
- 津軽塗技術の研鑽及び後継者育成に必要な経費の一部を補助することにより、「津軽伝統工芸職人たちに見る歴史的風致」の継承を図る。



先進事例紹介

■ 栃木県栃木市

栃木市では、江戸～明治期の蔵や大正時代の洋館が多数残っており、「蔵の街とちぎ」として、歴史・文化資源を生かしたまちづくりに取り組んでいる。電線類の地中化や遊歩道整備などとともに、「町並み修景ガイドライン」に沿って歴史的建造物周辺の修景を行うなど、歴史的町並みの景観形成が進められている。



【特徴・具体施策】

- 「栃木市歴史的町並み景観形成要綱」において、旧日光例幣使街道、巴波川周辺を栃木市歴史的町並み景観形成地区に指定し、歴史的な町並みづくりを実施。
- 地区内で建築物を新築、増築、改築、外観を変更、あるいは看板等の工作物の新設、改修の際は届出が必要。修景基準により指導、助言を実施。
- 地区内で建築物の修景工事を行う場合、経費の一部を補助する制度を運用。



先進事例紹介

■ 島根県松江市

松江市では、松江市景観計画および松江市景観条例を施行し、その中で、「建物の高さに係る基準」を定め、歴史・景観資源の保全・活用を図っている。



【特徴・具体施策】

- 昭和48年から伝統美観保存条例を施行し、伝統美観保存区域の歴史的まちなみの保存を行ってきた。平成19年には、伝統美観保存条例の趣旨を組み入れながら、景観法に基づく松江市景観計画・松江市景観条例を施行し、高さ規制を含めた景観形成基準(敷地地盤面から12m以下、3階建て以下など)を定め、この区域を景観地区と景観計画重点区域とした。
- 松江市景観計画の景観形成方針のひとつとして、「松江城天守閣から宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島の景観など全国に誇る眺望景観の保全」を掲げており、主要な展望地を定め、そこからの眺望を保全するための基準を定め、高さの規制を行っている。

先進事例紹介

■千葉県柏市

中心地の柏駅に隣接した商業ビルの3階に、官設民営の情報提供施設「かしわインフォメーションセンター」を開設。施設の管理・運営は、駅周辺の商業者やホテル、大学、市民など様々な分野の人たちで組織する「柏市インフォメーション協会」が担当。NPO法人格も取得し、「柏おもしろMAP」シリーズの発行や各種イベントの開催など、地域の様々な人たちと連携しながら展開する「情報発信」を通して、街なかの回遊性の向上と地域の活性化に貢献するまちづくりに取り組んでいる。

【特徴】

- インフォメーションセンターは街歩きの情報発信基地として、ボランティアスタッフが中心となって案内。
- 手作りマップ「柏おもしろMAP」シリーズを作成・配布。マップは「商店街単位」ではなく、「カテゴリー（ラーメン屋編、古着屋編など）」ごとに作成し、ターゲットを絞り、デザインも変えるなど、利用者の興味を引き出す。
- マップ作りのリサーチ担当には、ターゲットとなる年代層を起用し、必要な情報の充実を図る。



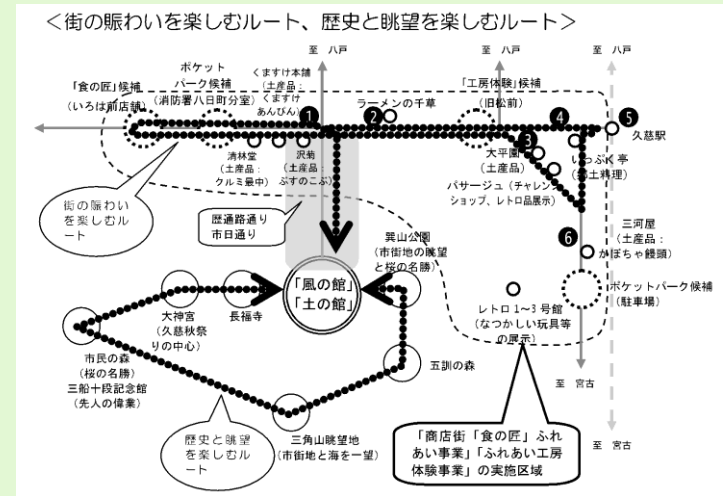
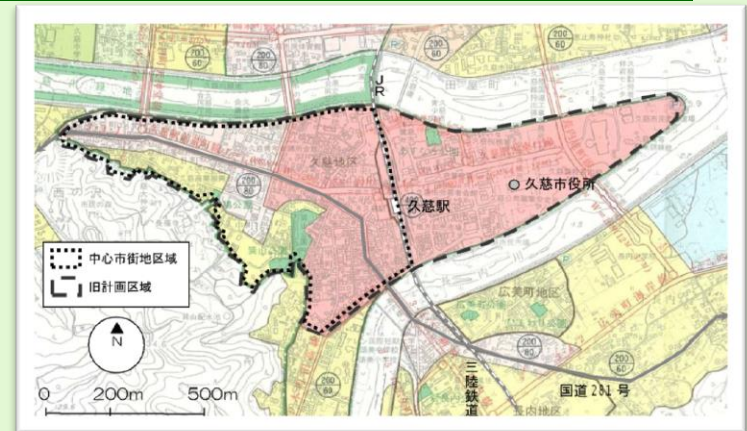
先進事例紹介


■ 岩手県久慈市

まちづくり交付金のユニバーサルロード整備事業（高質空間形成施設整備事業）として、中心市街地内の商店街、観光拠点などの回遊ルートを設定し、各ルートに案内サイン整備を実施し、来街者の誘引を図っている。

【特徴】

- 地域資源を基に「レトロにふれるルート」「街の賑わいを楽しむルート」「歴史と眺望を楽しむルート」の3ルートを設定し、各ルートの結節点にポケットパークや案内板を整備。
- 総合案内、広域案内、周辺案内、資源説明、回遊ルートと資源誘導サインの5つの案内サインを整備し、地域内の一体的なサインデザインによるイメージづくりと回遊性の創出を図っている。





本日、お疲れ様でした。